

MONITOUCH作画ソフト「V-SFT-6」バージョンアップ(6.1.1.0)のご案内

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より、モニタッチをご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
さてこの度、モニタッチ作画ソフト「V-SFT-6」のバージョンアップを行いましたので、ご案内申し上げます。

敬具

- 記 -

1. 製品型式

V-SFT-6

2. バージョン

Ver.6.1.1.0

3. 変更内容

パッケージされる各バージョンは以下となります。

シリーズ	項目	変更前	変更後
エディタ	V-SFT-6	V6.1.0.0	V6.1.1.0
V9 シリーズ	本体ソフト	V2.200	V2.300
	OS	V4.00	V4.10
V8(UG40)シリーズ	本体ソフト	V2.340	V2.360
TS2060 シリーズ	本体ソフト	V2.340	V2.360

4. 追加機能一覧

- 接続機器（通信ドライバ）追加
 - X1/V9/V8/TS シリーズ：日立製作所：HIDIC-S10/ABS 接続対応
 - X1/V9/V8/TS シリーズ：Siemens：S7-1200/1500(Ethernet ISOTCP) STRING 型対応
 - X1/V9/V8/TS シリーズ：神港テクノス：PCA1 シリーズ 接続対応
 - V8/TS シリーズ：BECKHOFF：ADS プロトコル(Ethernet) KeepAlive 対応
 - V8/TS シリーズ：BECKHOFF：タグ ADS プロトコル(Ethernet) KeepAlive 対応
- X1/V9/V8/TS シリーズ：表示・非表示設定 定数表示形式 HEX 追加
- X1/V9/TS シリーズ：N ステートランプ機能対応
- X1/V9 シリーズ：拡張帳票 対応機能追加
- X1/V9 シリーズ：メモ帳 機能拡張
- X1/V9 シリーズ：シンボル編集 レンジ変換機能対応
- X1/V9 シリーズ：多言語数 16→32 拡張
- X1/V9 シリーズ：IF(MULTI)、SELECT_CASE マクロ対応
- X1/V9 シリーズ：MES スタンドアローン対応
- X1/V9 シリーズ：入力モード「ENT キー押下時にカーソル移動する」機能対応
- X1/V9 シリーズ：入力モード コピー/ペースト機能対応

12. X1/V9 シリーズ : 表形式データ表示 背景色透過機能対応
13. X1/V9 シリーズ : 「読込/書込エリア」(V8 互換)に初期スクリーン No.指定
14. X1/V9 シリーズ : 処理サイクル 定周期機能対応
15. X1/V9 シリーズ : ピクチャビューア機能対応
16. X1/V9 シリーズ : レシビダイアログ ファイル名表示変更
17. X1/V9 シリーズ : E-mail STARTTLS(スタート ティ エル エス)対応
18. X1/V9 シリーズ : 横河電機 PLC(Ethernet 接続)ラダーモニタアップロード機能対応
19. X1/V9 シリーズ : 三菱電機 Q170 ラダーモニタ対応
20. X1/V9 シリーズ : トレンドサンプリング追加機能対応
21. X1/V9 シリーズ : バックアップフォルダ日付指定削除機能対応
22. V9 シリーズ : PDF ビューア ピンチイン/ピンチアウト機能対応
23. V9 シリーズ : 動画ビューア ストレンジ切替え対応
24. V9 シリーズ : AXIS 製ネットワークカメラ フリーサイズ指定対応
25. V9 シリーズ : USB カメラ スナップ機能対応
26. V9 シリーズ : DMC 製タッチスイッチエミュレート対応
27. V9 シリーズ : 環境設定「リモートデスクトップ機能を RGB32 ビットカラーで接続する」追加
28. V9 シリーズ : WMI(リモートアクセス/データ活用)の DNS 経路によるドメイン接続対応
29. V9 シリーズ : PictBridge プリンタシステムデバイスの追加 (プリンタ状態 : インクニアエンド追加)
30. V9 シリーズ : 環境設定「アニメーションの動作(V8 互換)」追加
31. V8/TS シリーズ : Panasonic 製ネットワークカメラ : BB-SW172A 対応
32. エディタ : イメージファイル名の UNICODE 対応
33. エディタ : 表形式データ表示 セルの幅と高さの直接変更
34. エディタ : デバイス使用状況一覧 表形式対応
35. エディタ : X1/V9 既存画面を開く際の警告表示追加
36. エディタ : SignAiEdge 機種追加
37. エディタ : オーバーラップ非表示機能の追加

5. バージョンアップスケジュール

2021 年 4 月 1 日出荷分よりバージョンアップ

6. 添付資料

MONITOUCH V-SFT-6 バージョンアップ情報

以上

V-SFT Ver. 6.1.1.0 バージョンアップ情報

	V9	TS2060i/TS2060	V8i(N)/V8(N)	X1
本体プログラム	Ver. 2.300	Ver. 2.360	Ver. 2.360	Ver. 1.100 *
OS	Ver. 4.10			



* X1のアップデートプログラムはホームページからダウンロードしてください。アップデート手順は『X1セットアップマニュアル』を参照。

接続

- 接続可能機種追加** : 日立製作所 HIDIC-S10/ABS
 対応機種 : V9/TS2060i/TS2060/V8i(N)/V8(N)、X1
 接続機種 : 日立製作所 HIDIC-S10/ABS
- 接続可能機種追加** : 神港テクノス PCA1シリーズ
 対応機種 : V9/TS2060i/TS2060/V8i(N)/V8(N)、X1
 接続機種 : 神港テクノス PCA1シリーズ
- 接続機種仕様拡張** : BECKHOFF ADS プロトコル(Ethernet) KeepAlive対応
 対応機種 : TS2060i/V8i (N)
 接続機種 : BECKHOFF ADS プロトコル(Ethernet)
 BECKHOFF タグ ADSプロトコル(Ethernet)

機能

1 Nステートランプ

対応機種 : V9/TS2060i/TS2060、X1

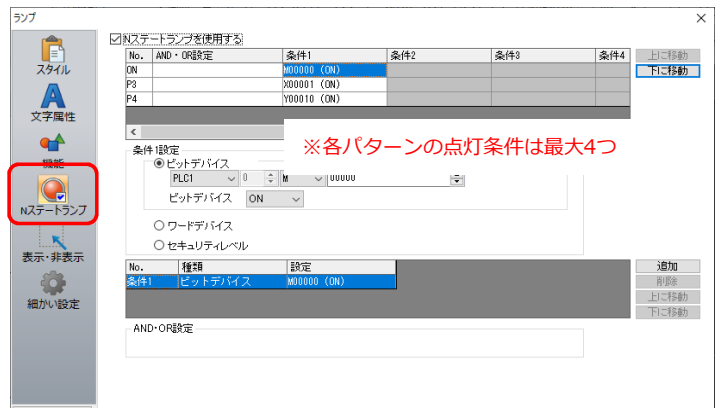
【概要】

- 各パターンに任意のデバイスを設定できます。
- マクロなどのプログラムなしで、ランプ点灯の条件を最大4つ設定できます。条件:OR、AND、範囲設定など

例 : ランプのパターン数4



デバイス : M0	M0	X1	Y10
パターン : OFF	ON	P3	P4



2 動画ビューア ストレージ切替

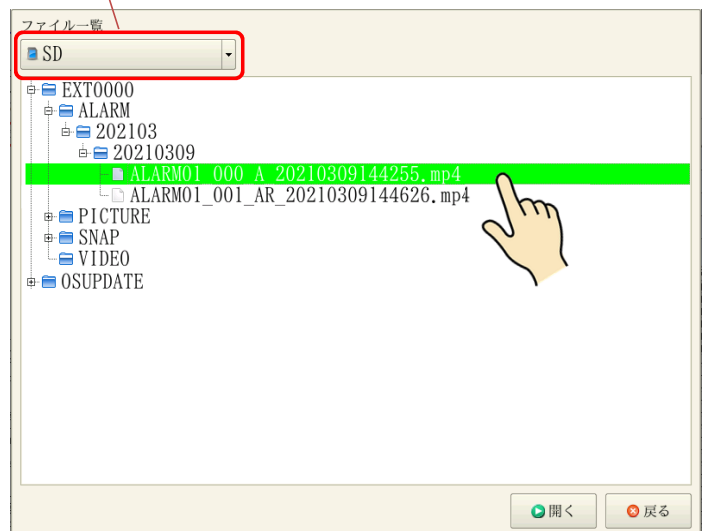
対応機種 : V9

【概要】

動画ビューア上でストレージ切替 (SD/USB) ができます。ストレージを選択後、フォルダ/ファイルを自由に選択できます。アラーム発生時に録画した動画ファイルも選択して、再生可能です。

デフォルト : アクセスフォルダ/VIDEO

ストレージ切替

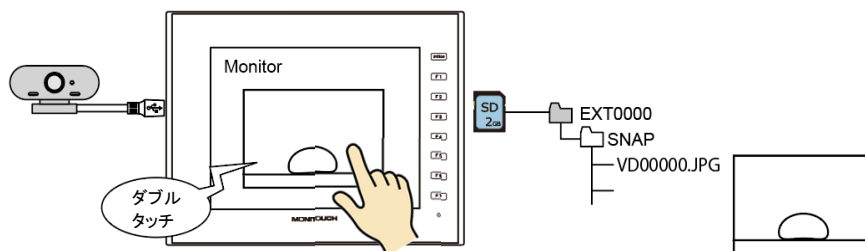


3 USBカメラ スナップ機能

対応機種： V9

【概要】

USBカメラを使ってリアルタイム表示の映像を画像ファイルとして保存できます。マクロコマンドにも対応するため、ユーザの好きなタイミングで実行できます。



【保存ファイル】

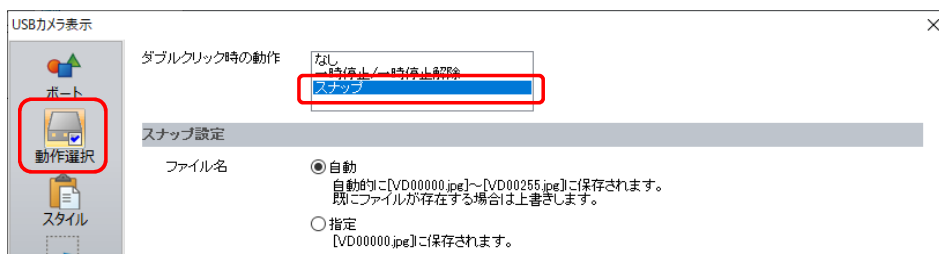
JPEGファイル

【実行タイミング】

- ・ USBカメラ表示アイテムのダブルタッチ動作
- ・ USBCAMマクロ

【設定箇所】

- ・ ダブルタッチの場合：USBカメラダイアログ→ [動作選択] → [ダブルクリック時の動作：スナップ]



- ・ マクロコマンドUSBCAM

※詳しくは『V9リファレンスマニュアル2』または『V9マクロリファレンス』を参照。

4 ピクチャビューア

対応機種： V9、X1

【概要】

ストレージに格納された画像ファイルをピクチャビューア上に表示できます。表示可能な画像ファイルは、JPEG、ビットマップ、PNGの3種類です。ビューア上でストレージ切替やフォルダ/ファイル選択ができるため、ユーザが用意した画像ファイル以外にも、USBカメラのスナップ画像など、V9本体で生成した画像ファイルも表示可能です。

【表示可能なファイル】

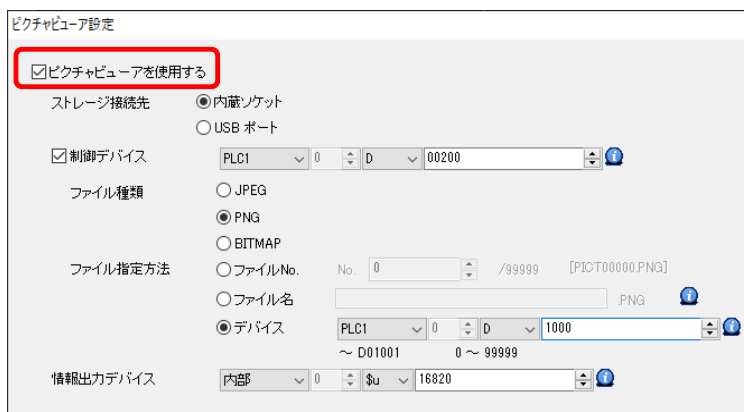
- ・ JPEGファイル *.JPG
- ・ ビットマップファイル *.BMP
- ・ PNGファイル *.PNG

【ビューア表示方法】

- ・ システムメニューの「ピクチャビューア」スイッチ（ローカル画面でも表示可）
- ・ スイッチ機能「ピクチャビューア表示」
- ・ PLC指令

【設定箇所】

- [システム設定] → [その他] → [ピクチャビューア設定]



ピクチャビューア

表示中のファイル情報も確認可能



機能

5 タッチスイッチエミュレート (RGB入力) Windows 10対応

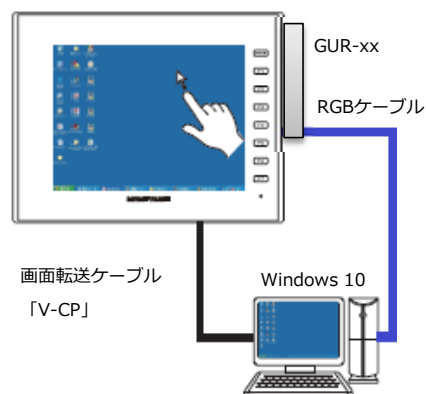
対応機種：V9+GUR-xx (RGB-IN)

【概要】

Windows 10のパソコン使用時、DMC製タッチパネルドライバ「DMT-DD」を使用して、タッチスイッチエミュレートが可能です。

【必要なもの】

DMC製タッチパネルドライバ 「DMT-DD」
詳しくは『V9リファレンスマニュアル2』を参照してください。



6 トレンド (履歴) 機能拡張

対応機種：V9、X1

【概要】

- ・カーソルの色、線種を自由に指定できます。
- ・バックアップファイルの表示順を設定できます。

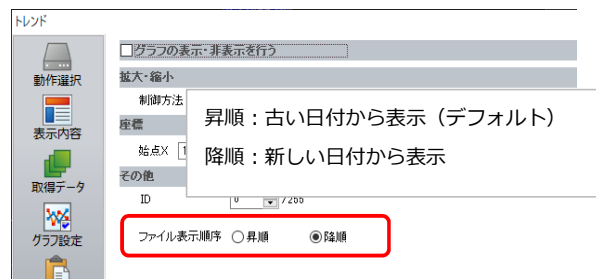
【設定箇所】

カーソルの色、線種、バックアップ一覧上の表示順はそれぞれトレンドダイアログで設定します。

- ・カーソルの色、線種：[表示内容] → [カーソル] のチェック



- ・表示順：[細かい設定] → [ファイルの表示順序]



例：降順

日付/時刻を選択してください

2021/03/11	23:42:14
2021/03/10	23:41:05
2021/03/09	15:39:17
	15:38:11

7 言語切換 32言語対応

対応機種：V9、X1

【概要】

[システム設定] → [フォント設定] → [切換言語数] を16言語→32言語に拡張しました。
エディタメニューや言語切替用スイッチ、マクロコマンドSYS (CHG_LANG) も32言語まで設定可能です。

マクロコマンドSYS (CHG_LANG)

	値
F0	CHG_LANG
F1	0：第1言語
	1：第2言語
	.
	31：第32言語

8 PDFビューア 拡大/縮小

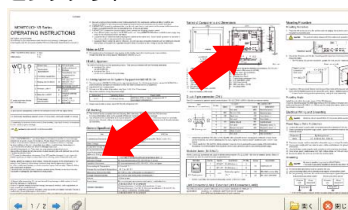
対応機種：V9Advanced (静電容量タイプ)

【概要】

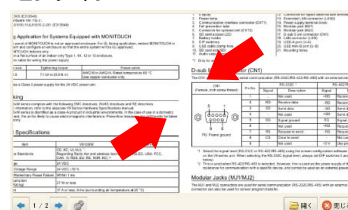
ビューア上の拡大/縮小スイッチ以外に、ピンチイン/ピンチアウトでの拡大/縮小に対応しました。

操作可能倍率：50~200%

ピンチアウト



ピンチイン



9 AXIS製ネットワークカメラ 表示領域のフリーサイズ指定

対応機種：V9

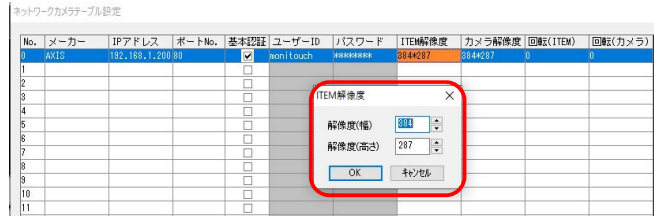
対象：AXIS製ネットワークカメラ

【概要】

V9上の表示領域をフリーサイズで設定可能です。

【注意事項】

ネットワークカメラの対応解像度に設定してください。
未対応のサイズは正常に表示されません。



10 表形式データ表示 背景色透過

対応機種：V9、X1

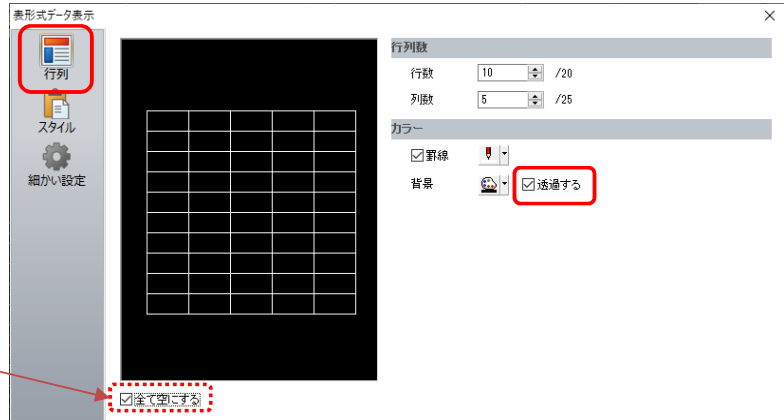
【概要】

表形式データ表示の背景色を透過できます。

【設定箇所】

表形式データ表示 → [行列] → [透過する] にチェック

チェックすると全てのセルが
空（テキスト）になり、
罫線としても使用できます。



11 メモ帳 機能拡張

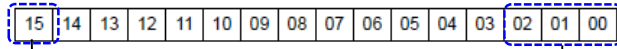
対応機種：V9、X1

【概要】

\$sを使用して、メモ帳の表示ページNo.やペンカラーの指定が可能です。
また、指定したページNo.のデータを消去して表示することもできます。

【仕様追加】

\$s106



消去

未使用

メモ帳No. 0~7

スクリーン切替時

1：指定したページNo.の消去
*消去後、1→0に戻る

現在表示中のページNo.を格納 (→V9、X1)
表示ページNo.の指定 (←V9、X1)

\$s719

・ペンカラーの指定 (←V9、X1) ※スクリーン切替時のみ有効
・スイッチ機能で指定したペンカラーを格納 (→V9、X1)

ペンカラー

黒:0

青:1

赤:2

紫:3

緑:4

水:5

黄:6

白:7 (デフォルト)

その他、128色パレットカラーで指定可。

詳しくは『V9リファレンスマニュアル1』参照。

【\$s106の使用例】

マクロで \$s106=8001HEX を指定

↓

メモ帳を配置したスクリーンに切り替え

↓

ページNo.1のデータを消去して、ページNo.1を表示 (\$s106=0001HEXになる)

12 拡張帳票 対応アイテム追加

対応機種：V9、X1

【概要】

[登録項目] → [帳票] の拡張帳票画面に配置可能なアイテムが増えました。

【対応アイテム】

・トレンドグラフ
・メモ帳 (\$s106に指定したページNo.を出力します)

13 入力モード 仕様改善

対応機種：V9、X1

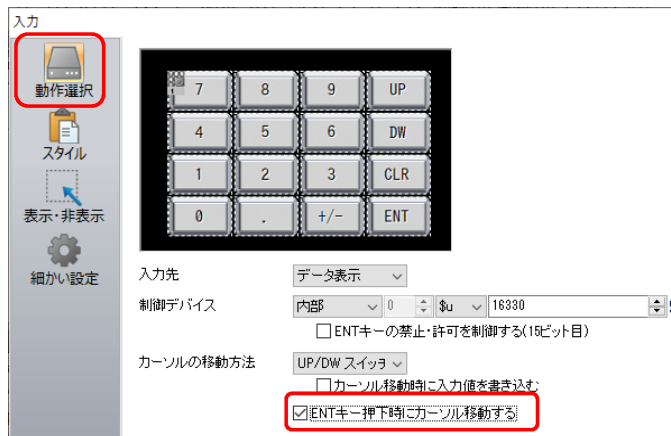
■ ENTキーでのカーソル移動設定

【概要】

制御デバイス14ビット目（カーソル自動移動）の制御をせず、ENTキーで次の入力対象にカーソル移動できます。オーバーラップ上に入力対象がある場合も同様です。

【設定箇所】

入力ダイアログ→ [動作選択] → [ENTキー押下時にカーソル移動する]



■ コピーペースト機能

【概要】

選択中の文字列をコピーして、クリップボードに保存し、別の入力対象に貼り付けできます。同じ文字を入力する場合に入力の手間が省けます。また、RUN中の間、最後にコピーした文字を保持するため、別のスクリーンに配置した文字列表示にも貼り付け可能です。

【対象アイテム】

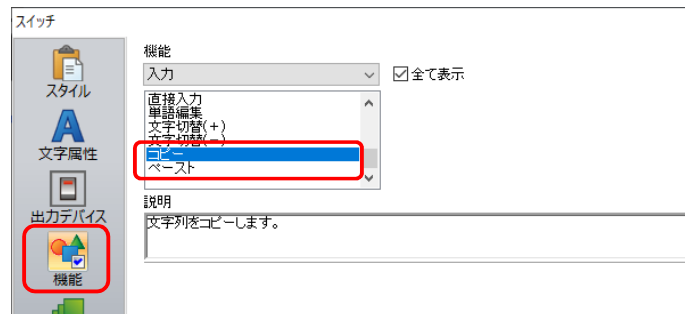
文字列表示（機能：入力対象）

【設定箇所】

- ・スイッチの機能：「入力」の [コピー]、[ペースト]
- ・スイッチのIDNo.：入力モードのIDNo.と合わせる

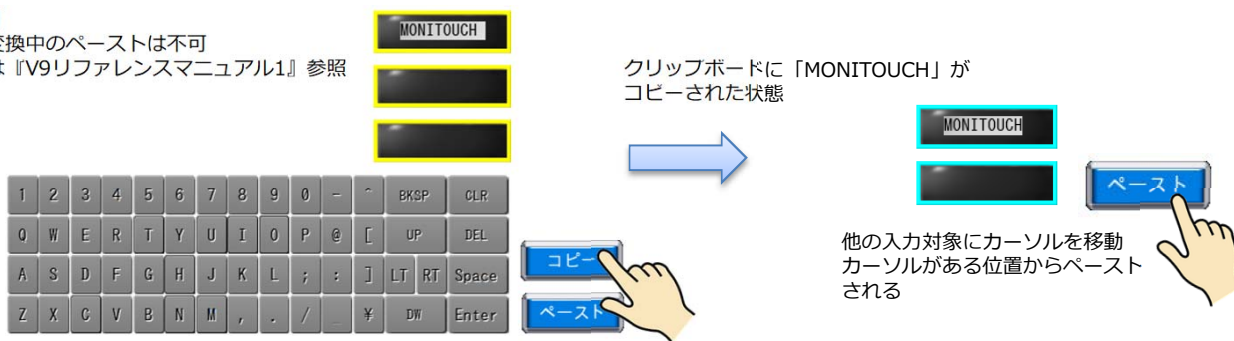
【操作方法】

1. コピー元の文字列表示を選択
2. コピースイッチを押す（スイッチ機能：コピー）
3. コピー先の文字列表示（入力対象）を選択して、ペーストスイッチを押す（スイッチ機能：ペースト）



【注意点】

日本語変換中のペーストは不可
詳しくは『V9リファレンスマニュアル1』参照



14 表示形式「HEX」対応

対応機種：V9/TS2060i/TS2060/V8i(N)/V8(N)、X1

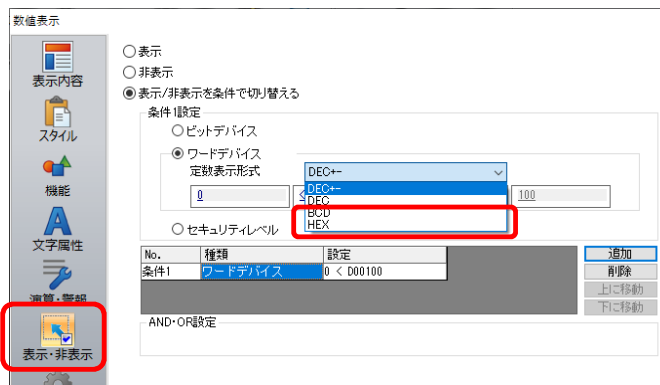
【概要】

表示・非表示設定とインターロックの条件設定で表示形式「HEX」に対応しました。

【対象項目】

- ・各アイテムの表示・非表示設定
- ・スイッチのインターロック

例：数値表示の表示・非表示設定



15 警報/演算/レンジ変換対応

対応機種：V9、X1

■ シンボル

【概要】

シンボルに設定したデバイスに対して、警報/演算/レンジ変換機能ができます。

演算が必要なデータをPLC側やマクロで処理する必要がなくなり、複数箇所で使用時もシンボル側の変更のみで済むため、工数削減が可能です。

【使用可能アイテム】

- ・ 数値表示
- ・ ロギングサーバ

【設定箇所】

- ・ シンボル：[ホーム] → [登録項目] → [シンボル] → [変換] をダブルクリック

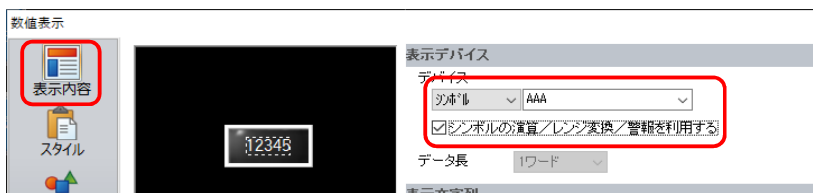


* 警報は数値表示のみで使用



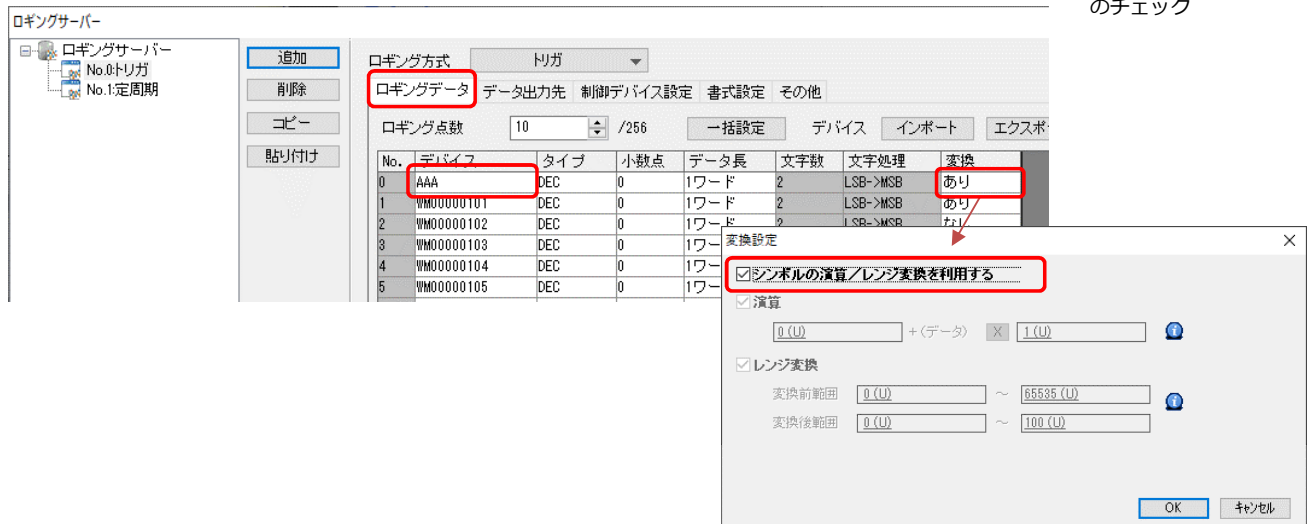
- ・ 各アイテムの設定 例：シンボル AAA

- ・ 数値表示：[表示内容] → [表示デバイス] → [シンボルの演算/レンジ変換/警報を利用する] のチェック



※チェックがある場合、数値表示の【演算/警報】は設定できません。

- ・ ロギングサーバ：[システム設定] → [ロギングサーバ] → [ロギングデータ] → [変換] → [シンボルの演算/レンジ変換を利用する] のチェック



■ ロギングサーバの演算/レンジ変換対応（PLC、内部デバイス）

【概要】

ロギングサーバにPLC、内部デバイス設定時、演算/レンジ変換が設定できます。グラフ表示やCSV出力なども全て変換後のデータで扱えます。

【設定箇所】

- [システム設定] → [ロギングサーバ] → [ロギングデータ] → [変換]

16 レシビ リストダイアログの表示改善

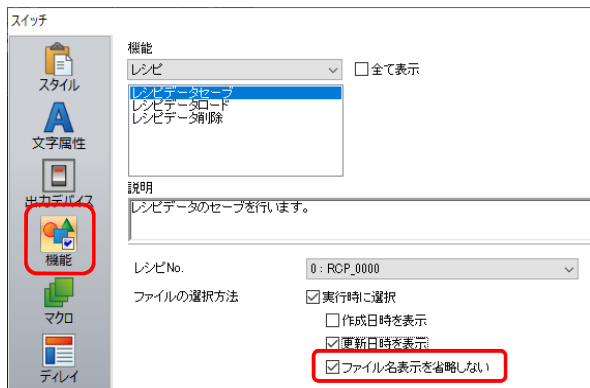
対応機種：V9、X1

【概要】

長いファイル名の場合も、全て表示できるようになりました。ファイル名の末尾だけが違うようなレシビファイル名でも探しやすくなります。

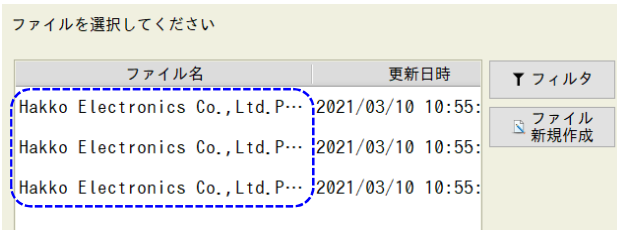
【必要な設定】

スイッチダイアログの「ファイル名表示を省略しない」のチェック

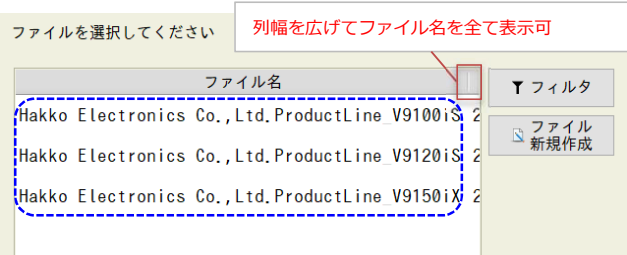


例：更新日時が表示ありの場合

- ・「ファイル名表示を省略しない」：チェックなし



- ・「ファイル名表示を省略しない」：チェックあり



17 バックアップフォルダの削除機能

対応機種：V9、X1

【概要】

ロギング/アラーム/帳票のバックアップフォルダを直近の指定した日数分を残して、自動削除します。不要になったバックアップフォルダを手動で削除する必要がなくなり、満杯による書き込みエラーを防止します。V9カレンダーの現在日からカウントします。

【対象機能】

以下の機能で作成されたバックアップフォルダ

- ・ロギングサーバ 「LOGGING」フォルダ
- ・アラームサーバ 「ALARM」フォルダ
- ・帳票のPDF出力 「LIST」フォルダ

【設定箇所】

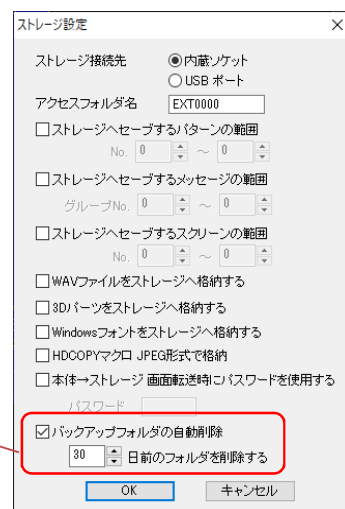
[システム設定] → [その他] → [ストレージ設定] → [バックアップフォルダの自動削除]での日数指定

【動作例】 30日指定でV9に転送

V9カレンダー 2021年3月30日

2021年2月以前のバックアップフォルダを自動で削除
(2021年3月1日～30日まで残る)

範囲：30日～2000日



【補足】

[システム設定] → [本体設定] → [環境設定] のチェックで自動削除することもできます。

- ・ [バックアップ作成時、ストレージ容量が不足した場合、古いフォルダから削除する]
- ・ [ストレージ容量が100MByte以下になった場合、古いフォルダから削除する]

18 マクロコマンド 比較 IF(MULTI)、SELECT_CASE 対応

対応機種：V9、X1

【概要】

マクロコマンドの比較命令 IF(MULTI)、SELECT_CASE に対応します。条件が複数ある場合に便利です。詳しくは『V9マクロリファレンス』を参照。

【仕様】

・ IF(MULTI)

```
IF(F0 (条件) F1) AND (F2 (条件) F3) THEN
  ①
ELSE
  ②
ENDIF
```

F0とF1の条件を満たし、且つF2とF3の条件を満たすならば、①の処理を行います。
満たさなければ②の処理を行います。
※ELSE、②は省略可

```
IF(F0 (条件) F1) OR (F2 (条件) F3) THEN
  ①
ELSE
  ②
ENDIF
```

F0とF1の条件を満たす、またはF2とF3の条件を満たすならば、①の処理を行います。
満たさなければ②の処理を行います。
※ELSE、②は省略可
※F0～F3はPLCデバイス指定可

・ SELECT_CASE

```
SELECT_CASE F0
CASE (条件) F0
  ①
CASE (条件) F0
  ①
CASE_ELSE
  ②
ENDSELECT
```

F0とCASEマクロの条件を比較し、条件を満たすCASE ①の処理を行います。
満たさなければ②の処理を行います。
※CASE_ELSE、②は省略可
※CASEは最大10個まで
※SELECT_CASEとCASEはワード比較

・ SELECT_CASE～CASE～ENDSELECTの場合

```
0 SELECT_CASE $u00100 (W)
1 CASE == 5
2 $u00101 = 1 (W)
3 CASE == 10
4 $u00101 = 2 (W)
5 CASE == 15
6 $u00101 = 3 (W)
7 CASE_ELSE
8 PLC1[D00100] = PLC1[D00100] + 1 (W)
9 ENDSELECT
```

\$u100が5ならば\$u101に1を転送
10ならば\$u101に2を転送
15ならば\$u101に3を転送
満たさなければD100を1インクリメントする

【使用例】

・ IF THEN AND～ELSE～ENDIFの場合

```
0 IF($M00000 < $u00010) AND ($M00001 < $u00100) THEN (W)
1 $M00000 = $M00000 + 1 (W)
2 ELSE
3 PLC1[M00005] (ON)
4 ENDIF
```

\$M0 < \$u10かつ\$M1 < \$u100ならば、\$M0を1インクリメントする
満たさなければM5をONする

19 E-mail送信機能 暗号化「STARTTLS」対応

対応機種：V9、X1

【概要】

V9のE-Mail送信機能において暗号化「STARTTLS」に対応します。
暗号化「STARTTLS」でセキュリティ強化したメールサーバでも受信可能です。

【対応メールサーバ】

- ・ Microsoft365(旧office365)のsmtp.outlook.com または smtp.office365.com
- ・ Gmailのsmtp.gmail.com (2段階認証のアプリパスワードを使用) 方式

【対応機能】

- ・ アラーム履歴/イベント履歴/リアルタイム
- ・ データ転送サービス (アップロード)

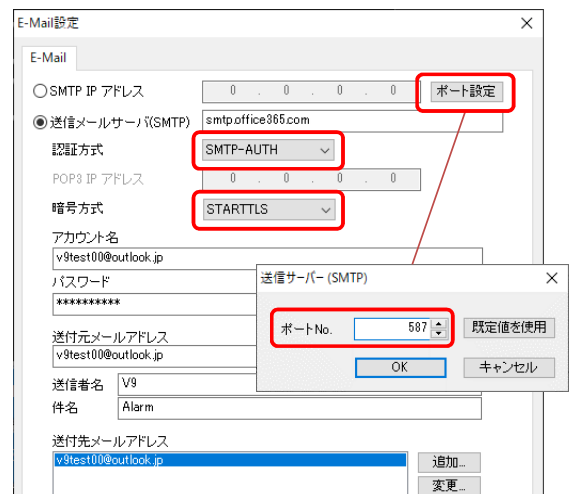
【必要な設定】

- E-Mail設定
- 「認証方式：SMTP-AUTH」
 - 「暗号方式：STARTTLS」
 - ポートNo.：587

・ 本体ローカル画面の場合



・ エディタの場合



【注意事項】

Gmailの場合、Googleのセキュリティ設定にて2段階パスワードの設定が必要です。
詳しくは『V9リファレンスマニュアル2』を参照。

20 MES スタンドアロン対応

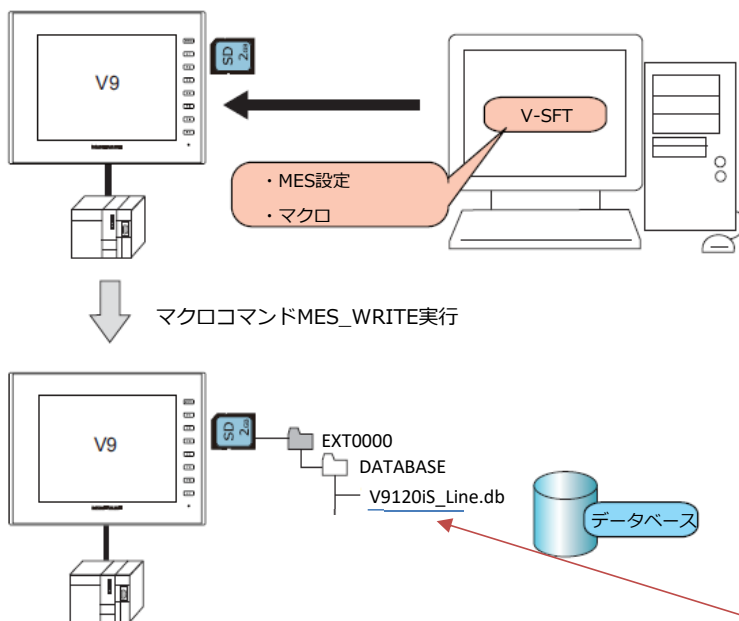
対応機種：V9、X1

【概要】

ストレージ内のデータベースファイルに対してMES機能が使用できます。

V-ServerやEthernet環境を用意する必要がないため、モニタタッチだけで簡単に実現できます。

また、データベースファイルはマクロコマンドMES_WRITEで新規作成できるため、データベースの構築も不要です。



データベース名が
ファイル名になります。
例：V9120iS_Line.db

【必要な設定】

[システム設定] → [その他] → [MES設定] → [スタンドアロンを使用する] のチェック

*その他は従来のMES設定と同じです。詳しくは『V9リファレンスマニュアル2』を参照

マクロコマンド	ベッタ	Write	Read	検索条件	Total
MES_WRITE	[128]	+ [34]	+ 0	+ 0	= 162 / 2000
MES_READ	[128]	+ 0	+ [0]	+ [0]	= 128 / 2000
MES_DEL	[128]	+ 0	+ 0	+ [0]	= 128 / 2000
MES_UPDATE	[128]	+ [34]	+ 0	+ [0]	= 162 / 2000

【データベースファイルの格納先】

(アクセスフォルダ名) /DATABASE

【データベースファイルの作成方法】

マクロコマンドMES_WRITEを実行

ストレージ内にDATABASEフォルダ、(データベース名) .dbが作成されます。

21 Web Machine Interface機能 仕様改善

対応機種：V9

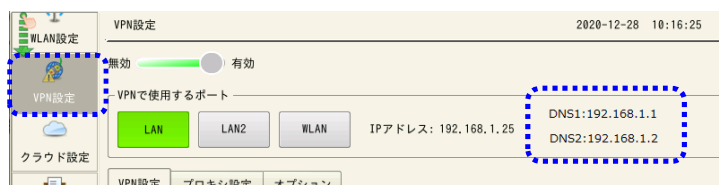
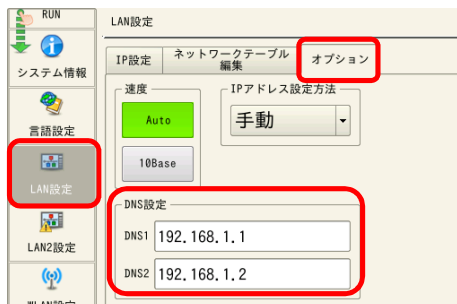
■DNSによるドメイン接続

【概要】

現状、V9のWeb Machine Interface機能では、認証サーバのグローバルIPアドレスを指定して認証/接続しています。契約しているクラウドサーバがサービス停止や廃止になった際、新しいサーバ接続への設定し直し作業が必要です。よって、今後のメンテナンスや利便性向上のため、DNS経由によるドメイン名の接続に対応しました。V9にDNSを設定することで、将来的にサーバ切り替えが発生しても、自動で切替接続します。

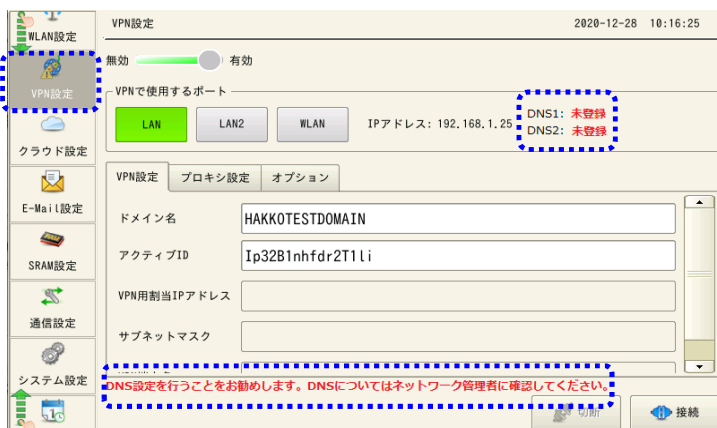
【必要な設定】

V9のVPNまたはクラウド接続で使用する [LAN/LAN2/WLAN設定] → [オプション] → [DNS設定]



DNSに設定するIPアドレスはネットワーク管理者に確認してください。

*DNS未設定時は以下のメッセージが表示されます



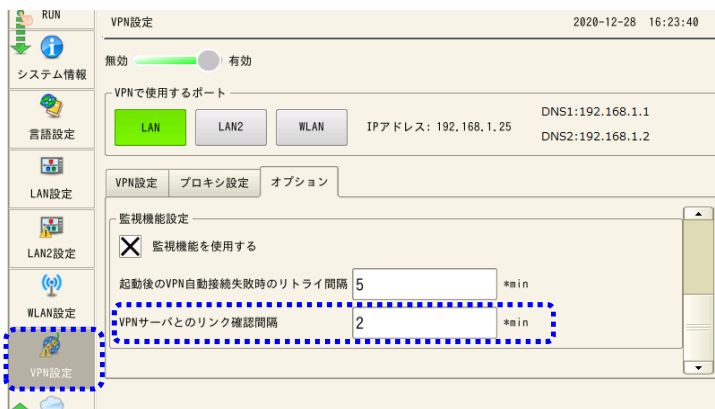
■監視機能設定の機能拡張

【概要】

VPN接続後、切断状態になった時、自動で認証サーバからVPNサーバに対して認証を行い、再接続する動作に対応しました。VPNサーバとのリンク状態を格納する\$s1679も常時更新します。

【再接続のタイミング】

[VPN設定] → [オプション] →
[VPNサーバとのリンク確認間隔]



22 三菱電機 Q170ラダーモニタアップロード機能対応

対応機種： V9、X1
 接続機種： ・ Q170MCPU(マルチCPU)
 ・ Q170シリーズ(マルチCPU)(Ethernet)

23 横河電機 Ethernet接続機種のラダーモニタ対応

対応機種： V9、X1
 PLC機種： ・ FA-M3/FA-M3R(Ethernet UDP/IP)
 ・ FA-M3/FA-M3R(Ethernet UDP/IP ASCII)
 ・ FA-M3/FA-M3R(Ethernet TCP/IP)
 ・ FA-M3/FA-M3R(Ethernet TCP/IP ASCII)
 ・ FA-M3V(Ethernet)
 ・ FA-M3V(Ethernet ASCII)

注意事項：コメントのアップロードは未対応

24 Siemens S7-1200/1500 (Ethernet ISOTCP) STRING型 対応

対応機種： V9/TS2060i/V8i(N)、X1
 接続機種： Siemens S7-1200/1500 (Ethernet ISOTCP)

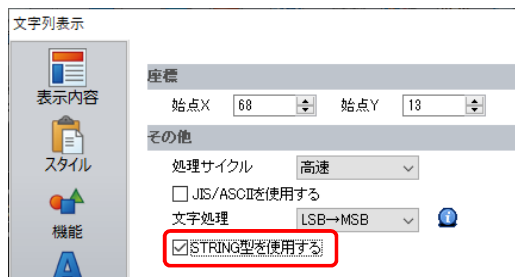
【概要】

PLC側にてデータ種別をSTRING型に定義したDBデバイスの読み書きに対応します。
 各対応アイテムに「STRING型」の設定が必要です。

例：文字列表示ダイアログ→【細かい設定】

【対応アイテム】

- ・ 文字列表示
- ・ 表形式データ表示の文字列表示
- ・ データサンプリングの文字列表示（表示領域）
- ・ レシビ（V9のみ）
- ・ アラームサーバー：パラメータテーブル（V9、X1のみ）
- ・ ログサーバー（V9、X1のみ）
- ・ レシビ（V9、X1のみ）
- ・ バッファリングエリア：アラームのパラメータテーブル（TS2060i/V8i(N)のみ）
- ・ バッファリングエリア：トレンド（TS2060i/V8i(N)のみ）



25 処理サイクル 定周期機能

対応機種： V9、X1

【概要】

各アイテムに設定する処理サイクルを定周期に変更できます。
 各スクリーンに、最大3つ（定周期1、2、3）設定できます。

【必要な設定】

【画面設定】→【スクリーン設定】→【PLCデバイス転送】→
 【処理サイクル設定】

- ・ チェックなし
 定周期1：100msec 固定
 定周期2：200msec 固定
 定周期3：1000msec 固定
- ・ チェックあり
 1～3600（単位：*100mSec）で指定可

【設定箇所】

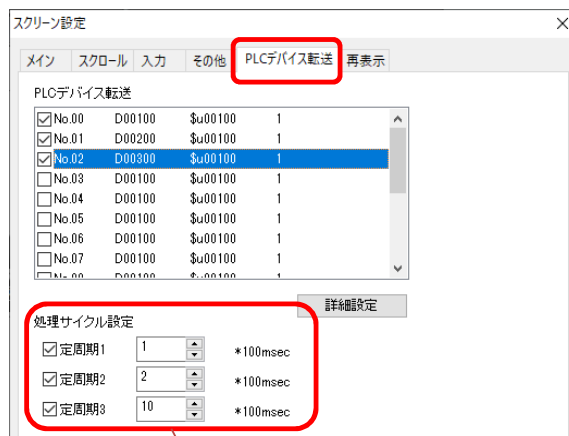
各アイテムの【細かい設定】→【処理サイクル】

【補足】

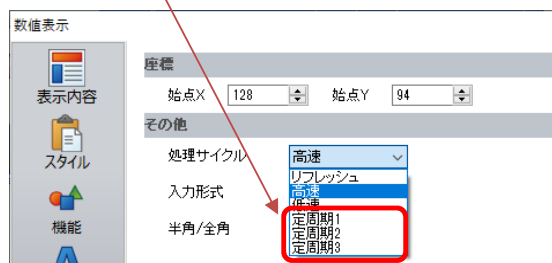
現在表示しているスクリーンの各定周期時間は以下の\$s\$に格納されます。

\$s1647：定周期1（単位：*100mSec）
 \$s1648：定周期2
 \$s1649：定周期3

* 詳しくは『V9リファレンスマニュアル2』を参照



例：数値表示



26 「読込/書込エリア」（V8互換）の初期スクリーンNo.指定

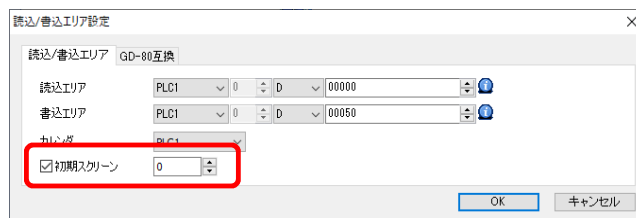
対応機種： V9、X1

【概要】

V8以前（PLC接続あり）の機種からV9またはX1に置き換え時、
 V9/X1新規作成時と同様、「初期スクリーン」のNo.指定が可能です。

【補足】

初期マクロよりも優先して動作します。



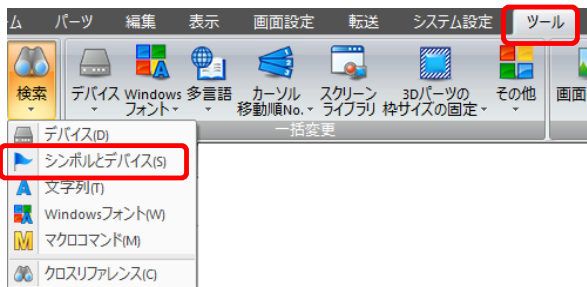
1 デバイス使用状況一覧 表形式対応

【概要】

デバイスの使用状況を表形式で表示できます。
セルを選択すると青色に変わり、その使用箇所が下に表示されます。
ダブルクリックで使用箇所へジャンプすることもできます。

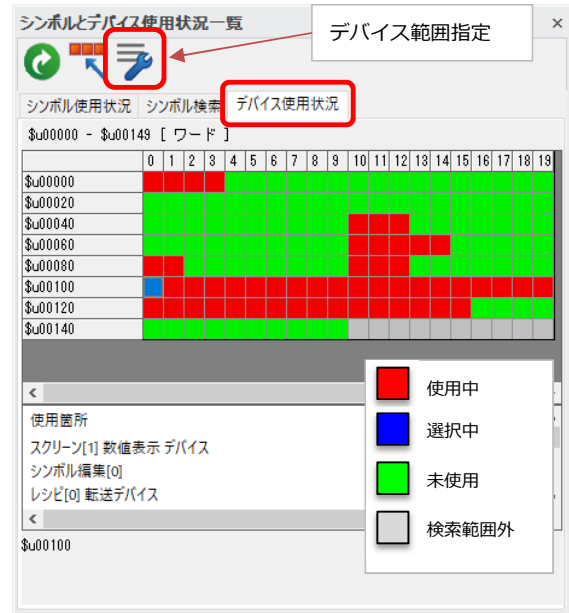
【操作方法】

1. [ツール] → [検索] → [シンボルとデバイス] をクリックする



2. [デバイスとシンボル使用状況一覧] が表示されるので、[デバイス使用状況] タブを選択する
3. デバイス検索範囲を指定し、[OK] をクリックする

検索結果が表形式で表示される



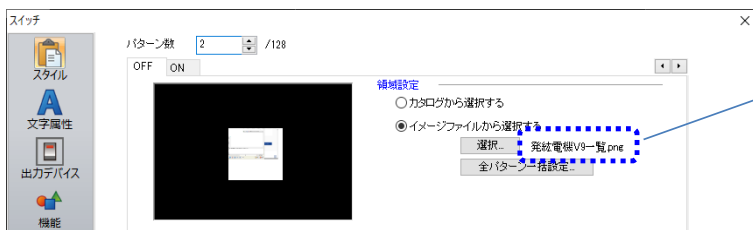
2 イメージファイル名のUnicode対応

【概要】

スイッチやランプなどのパーツに、ユーザが用意した画像ファイル（イメージファイル）を使用できます。このファイル名をUnicodeで扱えます。OSに依存した文字を使用した場合でも、他の言語OSで文字化けすることなく、使用できます。

また、エラーチェックでOS依存文字を使用したファイル名の使用箇所が特定できるため、使用自体を防ぐこともできます。

例：日本語OSのパソコン スイッチにファイル名「発給電機V9一覧.PNG」を使用した場合



この文字は日本語OS依存文字

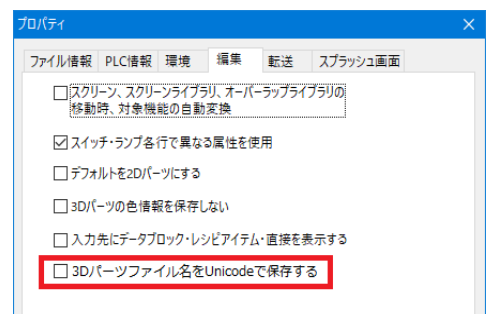
【対象】

パーツ（[イメージファイルから選択する] 選択時）

【設定箇所】

[ファイル] → [プロパティ] → [編集] → [パーツのイメージファイル名をUnicodeで保存する] にチェック

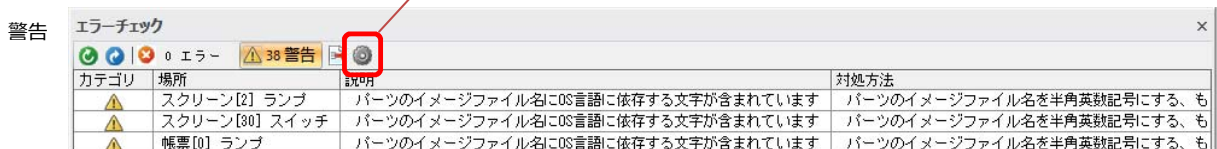
*既に画面データ上、複数の箇所にもOS依存文字のイメージファイル名が存在する場合、このチェックを入れることをお勧めします。



【イメージファイル名にOS依存文字があるか検索する場合】

[ツール] → [エラーチェック]

* [プロパティ] → [エラーチェック] → [パーツのイメージファイル名のOS依存文字を検出する] のチェックが必要
(デフォルト：チェックあり)

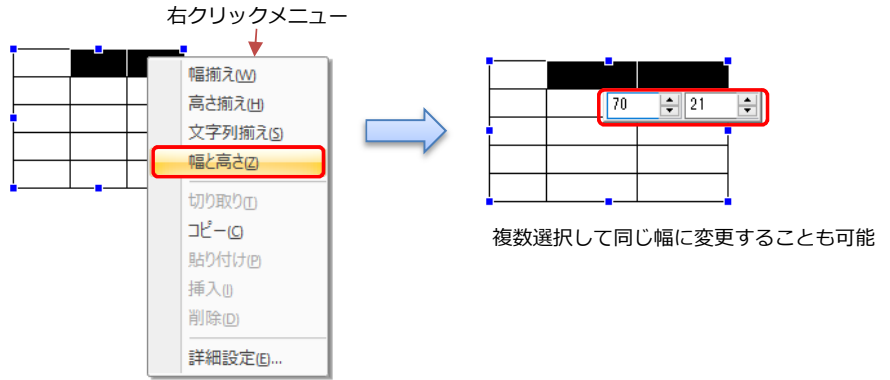


エディタ

3 表形式データ表示 セルの幅と高さの直接変更

【概要】

セルの幅と高さの変更が、右クリックメニューから直接変更できるようになりました。

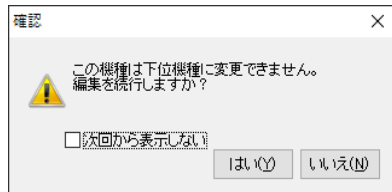


4 V9、X1の既存画面データを開く際の警告表示

対応機種：V9、X1

【概要】

現状、V9、X1の新規画面作成時に表示される警告メッセージが、既存のV9、X1画面データを開く場合も表示します。

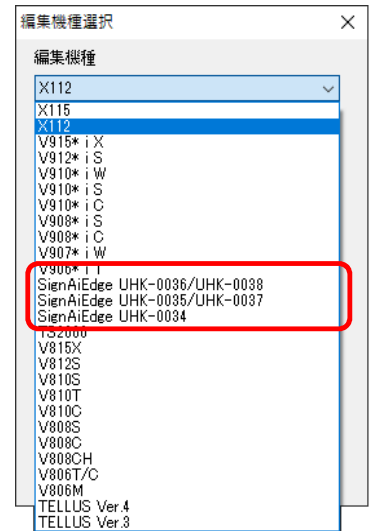


[次回から表示しない] にチェックをすると、設定したパソコンでは次回起動時から表示されません。

5 SignAiEdge機種追加

【概要】

[編集機種選択] にて、富士電機製 現場型診断装置「SignAiEdge」が選択できるようになりました。



以上です。